

第 2 学年 道徳科指導展開例

- 1 主題名 人として生きることの喜び
- 2 内容項目 Dーよりよく生きる喜び
- 3 教材名 足袋の季節（あかつき『中学生の道徳 2 自分を考える』）

4 ねらい（視点）

人は誰もが心の中に弱さや醜さがあり、してはいけないと知りつつも一時の誘惑に負けてしまい失敗をしてしまうことがある。目の前の子どもたちもその失敗を繰り返しながら、誰もがもつ良心との間で悩み、苦しみ、良心の責めと戦いながら、呵責に耐えきれない自分の存在を深く意識し成長していく。成長の過程でこうした苦しみに打ち勝って、恥とは何か、誇りとは何かを知り、自分に誇りをもつことができたときに、人として生きる喜びに気付くのである。そして、人として生きることの喜びや人としての行為の美しさに気付いたとき、人は強く、気高い存在になっていく。

本時では、おばあさんのちらっと「わたし」を見た時の目、「ふんばりなさいよ」という言葉によってささえられてきた「わたし」の生き方を考えることを通して、自らの弱さや醜さを克服する強さをもつことで得られる、人間として生きることの喜びを見いだそうとする道徳的態度を育むことをねらいとしている。

5 本時の展開

	発問と児童生徒の活動	評価・留意点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が「強いなあ」「弱いなあ」と思うときを想起する ・「部活で頑張れるとき」「決めたことができないとき」 ○教師の「足袋の季節」の範読 	※時間をかけずに、かつ自由に発言させる
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の内容を整理 ・（貧しさのため）小樽のおばのところへ身を寄せている ・おばに給料のほとんどを食費としてとられている ・冬なのに裸足 ・大福を売りに来るおばあさんからうそをついて 40 銭を手に入れた ○「わたしを苦しめたもの」について考える ・自分のことしか考えずに、うそをついてごまかしたこと ・手に入れたお金をそのままにしていること ・「ふんばりなさい」と言ったおばあさんの言葉 ・申し訳ないという気持ち <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【基礎発問】おばあさんの死を知ったときの「わたし」の気持ちはどのようなものだったのだろうか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・信じられない気持ち ・取り返しのつかないことをしてしまった ・自分はなんて愚かなことをしてしまったんだ ・自分に対して情けなくて、悔しくてしょうがない 	<p>※現代では考えられないことが一部あり、生徒は実感がわからない内容があることから、「わたし」の置かれた状況を理解させるために丁寧に解説し、まとめたい</p> <p>※「わたし」に良心がなければ苦しんでいないことに気づかせたい（後悔、罪悪感、自責の念）</p> <p>※くだものかごを手を手に汽車に飛び乗るようにして、おばあさんをたずねようとしていたときの気持ちと対比させたい</p> <p>※おばあさんの死から時間が経過</p>

	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【中心発問】おばあさんのちらっと「わたし」を見たときの目、「ふんばりなさいよ」と言ってくれたことばに、「わたし」はどうして支えられたという気持ちになったのだろうか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」を変えてくれたことばだったから ・過ちを気付かせてくれその後の人生に影響を与えた経験だったから ・おばあさんの死と直面し正しく生きることを誓うことができたから ・苦しさに打ち勝つことが大切だと教わった出来事だったから <p>○中心発問の交流（多面的・多角的な考えの交流）</p> <p>○『わたし』がだれかにさしあげなければならない心」の意味、人としてどのように生きていきたいか考える</p>	<p>する中で「わたし」の中の何かが変わったこと→「わたし」を苦めたものに打ち勝つことができたことに気付かせたい</p> <p>※「わたし」の姿を通し、「弱さの克服の先にある人間として生きることの喜び」に気付かせたい</p>
<p>終末</p>	<p>○ワークシートに本時の振り返りを記入する</p>	<p>※ワークシートにある 2 点について振り返るよう指示する</p>

6 評価

- ・中心発問に対して、自分の考えをノートにまとめるとともに、他者の考えを聞いて自分の考えを広げている。
- ・今までの自分の姿を振り返り、弱さの克服の先にある人間として生きることの喜びについて、自分の考えを深めている。